

2015年度「復興デザイン・スタジオ」シラバス

広島土砂災害の現場「への」／「からの」復興デザイン

夏学期 月曜 3-5 限 13:00-18:00

工学部 14 号館 222 番教室 担当：復興デザイン研究体

東京大学：窪田亜矢、本田利器、大月敏雄、羽藤英二、井本佐保里

復建調査設計：山根啓典

ティーチング・アシスタント：社基-矢野慎一、建築-矢吹慎、都市-中島健太郎

1. 主旨説明

2014年8月19日から20日にかけての豪雨に伴う広島土砂災害は、74名の死者となる大惨事となった。

<現場への提案>

現場を対象とした空間計画が必要とされていることはいうまでもない。地元自治体や地域住民、関係する事業者や計画者などの努力が続いている。広島市は2015年3月「平成26年8月20日豪雨災害 復興まちづくりビジョン」を策定した。このビジョンの策定プロセスを理解したうえで、有効性について議論して検討する必要がある。代替案もしくは付加部分の提案を試みることが、本スタジオの目的である。被災直後ではなく、半年以上が過ぎたこの時期だからこそ考えられることがあるのではないだろうか。繰り返すが、現場での必死の積み上げがあることを、十分に理解する姿勢が求められるのは言うまでもない。「現場への提案」をすることは、一方的な批判をして現場を混乱させるのではなく、今の状況をより良くできるかもしれないという思いからである。

<現場からの提案>

同時に、無理のある宅地開発や避難行動のさらなる促進など、当該現場から学ばなくてはならないことが多く指摘されている。これらは必ずしも今回の現場に限ったことではない。花崗岩の堆積したマサ土の斜面地が、特に高度経済成長期などに住宅地になり、後背の山が荒れていて、同様の土砂災害は容易に起こり得る。今回の被害から、私たちは何を学べるのだろうか。それを空間計画という形にして提示することが、スタジオのもう一つの目的である。

2. 復興デザイン・スタジオの進め方

本スタジオは、基本的に建設系三専攻の大学院生を対象とする。それぞれの分野を越えて、良く議論することで、自分の専門領域の可能性と限界を考えてほしい。

また、現場に学ばせていただいたことを、現場に還元する、あるいは広く有益な知見とするために、真摯な姿勢で最大限の努力をしてほしい。

前半は、調査やリサーチを中心とする。毎週、調査チームごとに発表して、全員で理解を深めていきたい。よって月曜午後以外に、チーム単位で議論を尽くしてほしい。

後半は、提案に主眼を置く。特に中間ジュリー以降は、提案チームごとに教員が回ってエスキースをして、提案内容を深めていく。

空間計画 Spatial Planning において、空間とは、物理的な環境という意味のみならず、社会的な関係という側面も重要である。両者の複合物として空間を捉えたうえで、当初の整備基準とその後続くマネジメント体制、日常と非日常の統合、被災を忘れないための工夫、自助・共助・公助の補完関係、過酷な被害者とそうでもない被災者の混成からの復興という状況の理解などを、提案に反映させてほしい。

最終ジュリー後、再び現場にてご提案させていただく機会を設けたいと考えている。

3. スケジュール

日程	内容	備考：左記の日程後にやること
0. 4月6日 14:55-17:00 1号館15教室	スタジオ内容概略説明 課題提示	履修希望者メール受付 履修者決定
1. 4月13日	課題概略説明、自己紹介プレゼン テーマ別調査チーム分け 1) 震災前の歴史・都市開発・市街地形成史・暮らし・自治の単位 2) 土砂災害・被害実態・防災対策(土木的、建築的、都市計画的な対応策) 3) 被災直後の公共施設の利用・震災後の暮らし・復興の状況・生業の変化	テーマに該当する既往研究や論文などを精査して読みあつて、次回発表に向けた論点整理をチーム内で進める。
2. 4月20日	調査チームごとに発表、共有	議論をふまえて、さらに内容を深めて、調査続行
3. 4月27日	調査チームごとに発表、共有 提案に向けてチーム組み替え、議論開始 a) 公共施設と配置のデザイン b) インフラ整備とマネジメントのデザイン c) 行政計画・防災計画のデザイン	
4. 5月11日	提案チームごとに発表、共有 現地調査のポイント整理	
5. 5月17-18日	現地調査	
6. 5月25日	提案チームごとに現地調査の成果発表 議論して共有	
7. 6月1日	中間ジュリーに向けてエスキース：提案の骨子	トレベなどでも構わないが、提案の内容の骨子は発表して、有益な議論とすること。
8. 6月8日	中間ジュリー：ピンナップレビュー	中間ジュリーの議論をふまえて各チーム修正
9. 6月15日	提案チーム同士の共有事項整理 全体の基本的な姿勢検討議論	
10. 6月22日	エスキース：提案の全体像	
11. 6月29日	エスキース：提案のディテールまで	プレゼンテーション準備も適宜開始すること。
12. 7月6日	エスキース：プレゼンテーションのあり方	
13. 7月13日	最終ジュリー (その後、現場への還元方法を検討する。)	提案する内容に合わせて、模型、平面図、断面図、立面図、ダイアグラムなどを提示すること。

質問や問い合わせは、窪田 ak@td.t.u-tokyo.ac.jp までお願いします。 以 上